

新収資料紹介 カーティスのボタニカル・マガジン

木場英久 (当館学芸員)

博物館では、展示資料を維持したり新しいものに取り替えたりする仕事の他に、資料を集めたり、研究をしたり、観察会を開いたり、いろいろな仕事をしています。ここでは、1995年度に新しく収集した資料の中から、『カーティスのボタニカル・マガジン (植物雑誌)』を紹介いたします。



カタクリ (ユリ科)
第1巻で紹介されています

世界最古の原色の科学的刊行物

カーティスのボタニカル・マガジンは、庭園や温室などで咲く外国の植物を紹介する目的でつくられた雑誌です。種ごとに詳細で美しい原色の植物画と学名、形態の解説、栽培に役立つ情報などが記されています。イギリスの薬種協会の園芸学の教授をしていたウィリアム・カーティスが1787年に創刊しました。ですから初期のものは、出版されてから、200年以上もたっています。カラー図版入りの科学的な刊行物としては、世界最古のものといわれています。

さらに特筆すべき点は、この雑誌は今日までほとんど中断することなく発行され続けているということです。さすが、ヨーロッパ。基礎的な研究を大事にして、コツコツと伝統を作り上げていく姿勢には感心させられます。日本も神奈川県も見習いたいものですね。

18世紀イギリスの植物調査の集大成

ボタニカル・マガジンが創刊した18世紀のイギリスは、園芸に関する関心が高まった時期で、園芸業者などはプラントハンターと呼ばれる人々を派遣して、世界中の植物を調べていました。北米や、当時はあまり西欧人が足を踏み入れることの無かった南アフリカ、ヒマラヤなどの地域にも調査隊を派遣しています。調査というより探検だったかも知れません。その結果、それまで知られていなかった植物がたくさん発見され、それらの世界各地の植物が、この資料には掲載されています。ただし当時は、カラー写真が発明される前だったので、出版するためには植物画を書く以上に良い方法がありませんでした。さらに、カラー印刷の技術もなかったので、銅版による線画に一枚ずつ手書きで着色されています。「命の短い花を、正確に描きとめたい」という画家の熱意が、200年の時を越えて伝わってくる気がします。



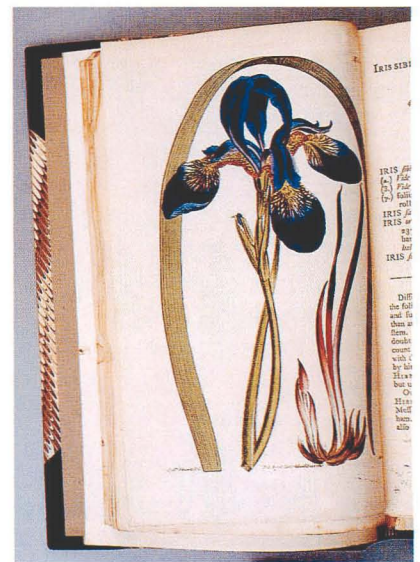
ガクアジサイ (ユキノシタ科)

ヨーロッパに紹介された日本の植物

カーティスのボタニカル・マガジンには、当時のヨーロッパの人々がまだ知らなかった植物などが、いきいきと描かれています。その中には、カタクリ、ガクアジサイ、アヤメなど、たくさんの日本の植物も含まれています。私たち日本人には見慣れた植物も、

ヨーロッパの人々には奇妙な花に見えたことでしょう。

初めてヨーロッパに紹介され、学名が付けられた種類や、ほとんど知られていなかったり、それまできちんと図示されることがなかった植物も、この資料にはたくさん含まれています。ですから、日本や世界の植物を科学的に研究するためには、この雑誌はなくてはならないものなのです。



アヤメ (アヤメ科)

自然誌の情報の拠点としての博物館

今回購入した資料は創刊号から1983年に発行された184巻までの、オリジナルな完全なセットです。当博物館では、1994年以後の新しい号も購入し続けているので、途中の10年ほどを除けば、創刊以来のボタニカル・マガジンを所蔵しているわけです。この雑誌の他にも、多くの資料を、継続的に収集・保存しております。それは、当博物館が、自然誌に興味をもつ人々に、役立つ情報をできるだけ多く備えていたいと思うからです。

自然科学のつばら

第2巻第2号 (通巻第5号)

1996年5月15日発行

発行所 神奈川県立生命の星・地球博物館

〒250 神奈川県小田原市入生田499番地

Tel.: 0465-21-1515 Fax: 0465-23-8846

発行人 濱田隆士

印刷所 フルサワ印刷株式会社

自然環境保護のため再生紙を使用しています